

今月の
いいね!

大きく育てオオニベ



オオニベ

【名前】

オオニベ（スズキ目ニベ科）

【すむ場所】

南日本。水深 150mまでの砂地や岩礁域。

【大きさ】

最大2m（一般的には1~1.5m）

【当館で見られる場所】

磯の魚

【特ちょう】

魚屋でイシモチとして売られる「シログチ」や「ニベ」の仲間。味がよく、宮崎県では養殖も行われている。最近では、釣りのターゲットとして人気がある。

【担当学芸員から一言】

展示している個体は、まだまだ子供です。大きくなるのを楽しみに！！（K.Y）

Q&A

疑問にお答えします：エサ

館内のお客様からよくある質問に学芸員がお答えします。

Q.魚のエサは何ですか？

アジ・イワシ・サバのほか、オキアミやアサリ、イカなどを与えています。また、人工のエサを与えることもあります。

Q.1日何回ぐらいあげますか？

当館では、週に4回、1日1回与えます。

Q.一番たくさん食べるお魚はどのお魚ですか？

当館では、大水槽のエイたちです。

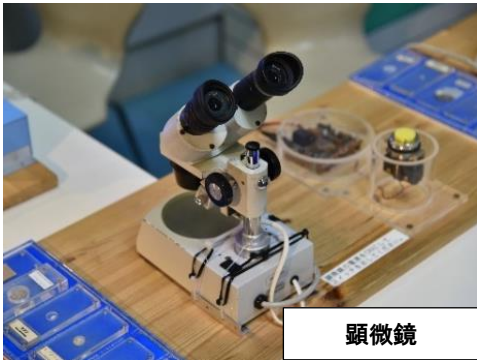
Q.エサをあげるときに気をつけていることは何？

エサの時は常に生き物の様子を観察します。（Y.I）



左上から時計回りにオキアミ・イワシ・アサリ・アジ

細かい部分を調べてみよう



顕微鏡



星砂

春先から夏にかけて、磯のタイドプールではいろいろな生き物が元気に動いている姿が観察できます。どんな生き物がいるのか調べるのも、楽しいと思いますよ。

生き物の特徴はさまざま、中には目では見にくい細かい部分を調べないと種類がわからない場合もでてきます。そんな時には、虫メガネや顕微鏡などを使って観察してみてください。

博物館の二階にある「海岸の砂」のコーナーには、星砂を拡大して観察できる大型のルーペがあり、星砂の形がわかるように展示してあります。また、「うみの研究室」には、もっと細かく観察できる顕微鏡と、観察用の星砂のサンプルが用意してありますので、20倍や40倍のサイズに拡大して、星砂の表面のようすを観察することができます。

博物館の顕微鏡は、両目で観察できるタイプなので、きちんと調節すれば星砂を立体的に見ることもできます。ぜひチャレンジしてみてください。

また、この研究室には特大の虫メガネもあります。いろいろな道具を利用して、それまで気付かなかったことを発見してみてくださいね。(T.I)

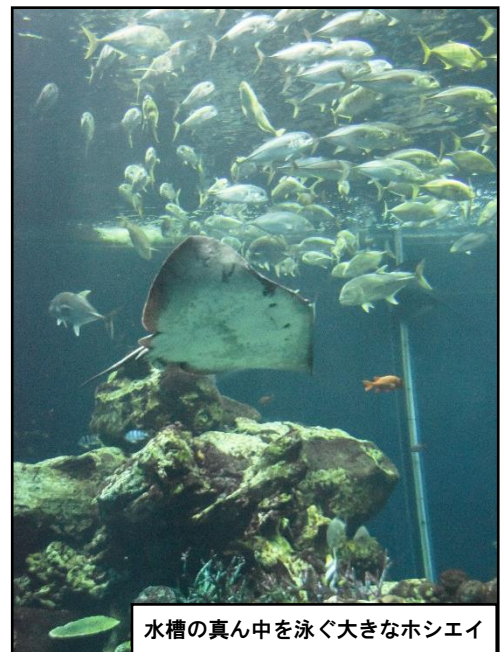
海洋水槽のホシエイ

海洋水槽中をひらひらと泳ぐホシエイ。3個体中一番大きい個体がメスで、小さい2個体はオスです。

その大きなメスが2019年の4月に元気な赤ちゃんを産みました。読者の皆さんの中には、魚は必ず卵を産むと思っている方もいるかもしれませんが、ホシエイの赤ちゃんは、卵ではなく体の幅が40cmぐらいで、親と同じ形をして生まれてきます。卵胎生といわれます。赤ちゃんエイは、小さくてとても可愛い姿でした。

水槽中を大きなエイがひらひらとそして悠然と泳ぐ様子は見ていて飽きません。その体つきから、よくお腹側にある鼻のあなを目と勘違いされてしまいがちですが、実は違います。目は、反対側にきちんと上を向いてついています。

ホシエイの可愛い行動は、エサの時間になると水面付近に上がり、壁面を体でたたきながらエサをねだるところです。しかし、体が平たいので、投げてもらったエサはうまく食べられません。そのため、エイたち用にエサをバケツで水槽の底まで下して与えます。エサのアジを体の下に囲い込んで食べている様子は、食いしん坊の子供のようでとても微笑ましく、見ていて飽きません。(F.K)



水槽の真ん中を泳ぐ大きなホシエイ

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。予めご了承ください。